

資料①：第 2 回会議の議事録

平成 26 年 3 月

南城市

1. 現在の利用状況中間報告

委員	事務局
<p>一日何便運行しているのか。一日に、何便出て何人乗せたか、便ごとに利用を整理すべき。</p>	<p>1日あたりの運行便数、利用者数のデータも整理する。</p>
<p>総人口に対しての利用者数ではなく、字ごとに65歳以上の人口に対して何人登録したか、うち何人利用したかなど整理が必要である。</p>	<p>65歳以上人口に対する登録者数、利用状況を行政区別に整理する。</p>
<p>デマンドバスがなければ外出しなかった人の理由も把握すべきだ。外出しない理由が、バス路線の本数であれば改善できる。</p>	<p>交通弱者が移動に不便を感じている点、移動手段がないために移動をあきらめている状況をH24調査で把握している。</p>
<p>無償での運行だが、有償で実施しないとどのくらい赤字がでるかかわからないのではないのか。</p>	<p>今後、本会議において有償化に向けた検討を行っていきたい。</p>
<p>登録情報で住所の情報はわかるので、そこから最寄りバス停も確認できる。車内アンケートでは利用目的がないので把握する必要がある。また、登録して乗らなかった、1度乗って乗らないのはなぜなのか理由も把握する必要がある。</p>	<p>登録者アンケートにおいて、目的、登録したが乗らなかった理由を把握する。</p>
<p>路線バスがない地域で乗せてほしい。馬天営業所にも行っているが、既存客にどう影響あるか気になる。馬天で降りてその後、バスに乗ったかデータが取ればよい。</p>	<p>路線バスとの乗り継ぎ状況については、登録者アンケートで把握する。</p>
<p>バス会社でも、どの便に何人乗ったか、過去実績とデマンド以降どうなったのかなど、市任せではなく、バス会社の情報提供も必要。</p>	<p>バス会社にも情報提供をお願いしたい。</p>
<p>タクシーに電話すると、△△の〇〇さんとすぐ分かる。利用する人と会社側がすぐ分かれば安心して利用できる。</p>	<p>南城市のデマンドバスについても地域に根ざした運営を行っていけるとよい。</p>
<p>南城市まではどのように観光客を案内するのか。</p>	<p>観光客向けのチラシの「南城市までのアクセス」に、メインポイントまでのバスでのアクセス方法、所要時間等を記載している。</p>

2. 実証運行計画の見直し(観光客向け周遊ルート)について

委員	事務局
観光客向けチラシは、指定した場所に迎えに来ると思うのでデマンドバスの説明を直す必要がある。	観光客向けの名称を「観光おまかせなんじい」に変更し、「おでかけなんじい」の差別化を図るとともに、観光客向けのチラシにも両者の説明を追加する。
観光客向けも市民向けも、おでかけなんじいなのか。	観光客向けのチラシの注意書きに、立ち寄りポイント下車後の「おでかけなんじい」利用案内を追加
利用プランなどがあると良い。カフェまで行きその後、周遊に乗るのか市民向けのデマンドに乗るのかなど。	観光客向けのチラシの注意書きに、立ち寄りポイント下車後の「おでかけなんじい」利用案内を追加
ユインチホテルを通るバスはわずか。お客さんからすれば、親慶原に来てもらうと良い。ユインチまでは結構歩く。バス路線も分かりにくい馬天ターミナルだと分かりやすい。また観光客は、バス停まで来てどこに行けばいいか分からないと思う。	バス会社にも、デマンドバス利用のPRをお願いしたい。
周遊ルートは、観光客のみか。市民は利用できるのか。	観光目的であれば利用できる。
観光客は、沖縄に来る前にレンタカーを利用すると決めているので、その前に案内すべき。1日レンタカーがなければこんな遊び方ができると案内する。役所やルートのカフェ等にリンクを張ってもらうほうが良い。	関係各所でのチラシの配布、HP リンク等を検討する。
タクシーやバス会社が運営するほうが、事業がスムーズではないか。	有償時は、公募での運営主体の選定を考えている。
デマンドバス運行をするかしないかの判断もある。有償になったあとの実証実験もするのか。	協議会で有償運行の運賃を決定し、有償での実証実験の実施を検討する。
交付金があれば、4月以降も無料なのか。	
運転免許を返納して、運転経歴証明書を持っていると、バスやタクシーでは割引がある。それも視野に入れてはどうか。	割引運賃については、低所得者も含めて検討する。

3. 本格運行に向けた体制

委員	事務局
<p>沖縄県の他市町村で、無料で市内周遊バスを運行していたが、去年、中学生以上100円、小学生や障がい者は無料としたところ、利用が1/3に激減した。有償になると利用が減る可能性が高いことを念頭にいれるべき。</p> <p>他府県では200-300円とあるが、沖縄は所得が低いのでもっと安いほうがいい。</p>	<p>登録者アンケートで、運賃に対する意向や、有償時の利用意向をあらためて把握する。</p>
<p>実証実験の前にしたアンケートでは、市内だけだと使わないという人もいた。与那原の病院にいくからと。</p> <p>また、バス停で待つ時の腰掛も必要である。</p>	<p>市外へは路線バスなどに乗り継いで利用していただければと考えている。バス停の整備は、別途、道路管理者や交通事業者などとの協議が必要になる。</p>
<p>無償からいきなり300円は厳しい。登録も減らないか。沖縄の他市町村でコミュニティバスなど行っているが、うまくいった事がない。一括交付金というのは分かるが、市民に有益なのか。バス停に屋根を付けてキレイにするなどにしてほしい。交付金だからやる、駄目ならやめるではなく、交付金も税金であるので大切にすべき。観光客もバスで市内に来て市内はデマンドよりは、そこでタクシーに乗せてあげたほうが効率的で客も好きなどところに行ける。</p>	<p>有償実験を実施し、利用状況や利用者の利便性、観光面への効果等と財政負担を勘案し、今後、どのような公共交通体系が望ましいか検討したい。</p>
<p>有償300円前後という根拠を教えてください。</p>	<p>車内の簡易アンケートの結果を踏まえ、設定している。運賃については登録者アンケートでさらに把握する。</p>
<p>公募とあるが、事業者へ見積もりもとるのか。</p>	<p>費用や体制等を委託先選定の判断材料とする。</p>
<p>デマンドの評価には、収益と便益の2つの視点があり、それを整理して検討すべき。市にも大きな負担があり、市民の生活交通が困っており、高齢者が加害者となる事故も増えている。もし収益が見込めるのならば、すでに民間が実施していると思う。300円の金額は平均値なので、金額の分布も考慮する必要がある。</p>	<p>登録者アンケート結果をもとに、有償時の運賃については検討したい。有償時には収益と便益の2つの視点からの評価が必要であると考えている。</p>